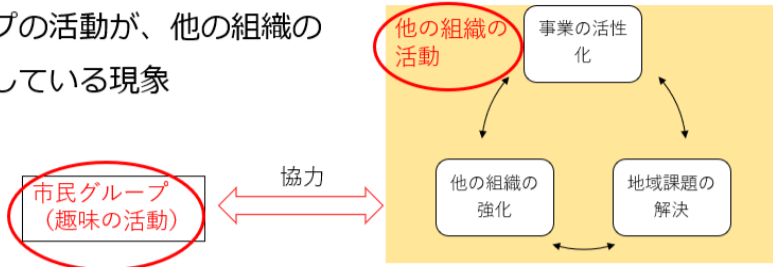


住民グループが地域の活性化に協力するプロセスの研究

2020年7月9日 2セメ高橋誠

(1) 研究目的

市民グループの活動が、他の組織の活動に協力している現象



2 研究対象の概要【八日市つるし雛同好会】

岩手県花巻市八日市地区の女性9人で構成され、今年で15回目の「八日市つるし雛まつり」を開催。趣味で始めた「つるし雛」を、行政からの支援なしで、作成、展示し昨シーズンは17日間に約23,700人の来場者を集めた。

- ・ 伝統でも文化でもない。独学で学んだ趣味。
- ・ 来場者の対応のために近所の高齢者、地域の自治組織の人、家族が協力している。(会場での産直販売、観光バスツアーの見学場所、温泉宿から近い観光地として経済的活性化の貢献がある)
- ・ 地域の人に地域愛着を醸成している
- ・ 婦人会が作品を展示、友人が材料の着物や雛人形を展示して関係者が広がっている。
- ・ 希望者には技術を惜しみなく教えている。別の団体として活動し文化祭や他の町のひな祭りで展示している
- ・ 結果的に地域づくり(「地域内の個人や団体が、地域の経済や社会の活性化ないしは環境整備のために、主体的に企画し、実践する活動」)

3 研究の目的：既存の資源を使って、他のグループに協力することで、活動の支援や地域の活性化つながっている事例の研究によって、その要因や過程、関わり合いの展開過程を明らかにし、理論化する。

4 研究意義

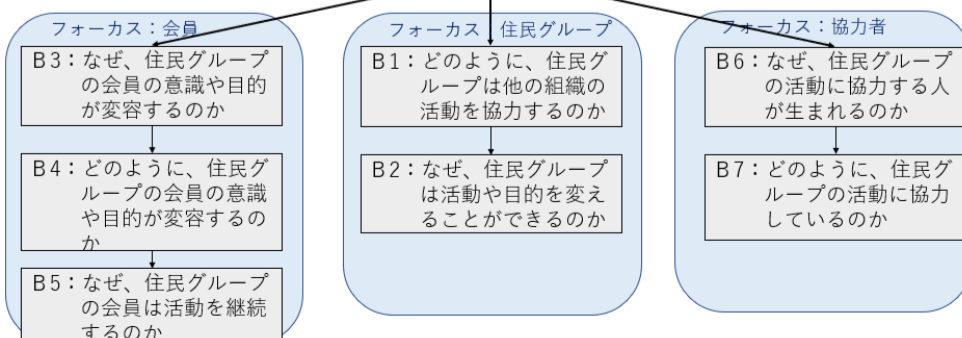
- ・ 社会的な意義：地域振興への寄与や高齢者の社会参加の促進による社会的孤立を防止する
- ・ 学術的な意義：劉(2003)は、農村活性化の要因には、①住民の危機意識や自覚等があることを明らかにしている。
→危機意識ではなく、楽しむことが契機になっている場合、どのような過程によって、他の組織の活動を活性化させているのかを明らかにする。



(2) リサーチ・クエスチョン

フォーカス：住民グループと、外部の人やグループとの関係性

A：なぜ、住民グループは他の組織の活動を協力するのか？



(3) 鍵概念

1 社会活動

定義：家庭外での対人活動(橋本ら, 1997)

カテゴリー：向上、低下、変化なしの3段階

指標：活動人数、参加回数、活動内容の事業数と充実度、活動期間
分類手順：会員、他団体の代表者へ半構造化インタビュー

2 趣味縁

定義：関係成立と持続の契機としての趣味・好みを重視した、人間関係(藤田, 1991)

カテゴリー：濃密、希薄、変化なしの3段階

指標：活動日数、活動期間、趣味活動以外での面会日数
分類手順：対象の会員、他団体の代表者へ半構造化インタビュー

3 地域の活性化

定義：活性化(ダイナミズム)を「日常的(ルーティン)行為によって達成される水準を越える付加価値を達成する動き」と定義。経済的活性化と社会的活性化があり、社会的活性化とは日常的な社会的行為によって達成される生活充足度を越える付加価値を追及する社会的動き。(河村, 1991)

(4) 研究手法

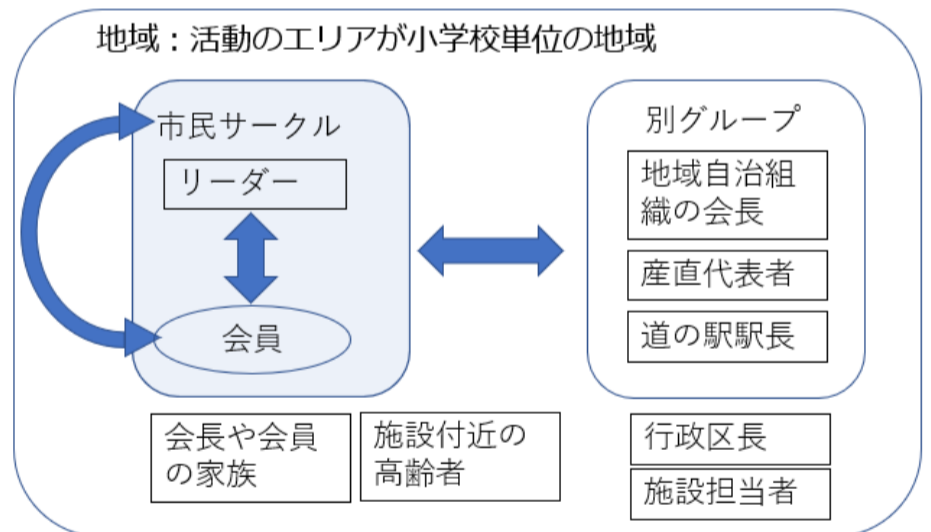
1 研究手法：事例研究

2 分析枠組：社会的交換理論

- ・ リーダーと会員、グループと会員、グループと別グループにおいても、相互作用が成立していると考え、社会的交換理論を枠組みになるのではないかと見込んでいる。

2 調査手法、調査対象、データ収集

- ・ 半構造化インタビュー(会長等、図の四角囲みの者)
- ・ フォーカスグループ(会員)
- ・ 参与観察、公民館等の資料の収集



3 データ分析手法：SCAT

- ・ 理論化するために分析の過程が可視化され分析の妥当性確認が求められること、比較的小規模のデータに適用可能なことからSCATを採用する。

4 分析単位 会員(事例)、組織(事例)

5 検証方法 理論開発のための、基本パターンへの例外事例、逸脱事例の研究

